



被災者と体力測定の結果について語り合う学生(左)

交流で元気になってほしい」と話していた。
(水野大輔)

健康相談通じ 被災者と交流

青森県立保健大生ら
野田の仮設住宅訪問

青森市の青森県立保健大学の学生6人と教職員5人が30日、東日本大震災の復興支援活動の一環で、野田村の野田中学校グラウンド仮設住宅を訪れ、健康相談や体力測定などを通じて被災者たちと交流を深めた。

本年度2回目の訪問



となった今回は、集会所の大掃除をしたり、仮設住宅での生活が続く被災者の血圧や体脂肪の測定を行ったり、お菓子やお茶を出してもてなしたりした。体力測定を受けた小野寺ちとせさん(左)は「楽しく体調チェックができるし、親身になって話を聞いてくれるので大変ありがたい」と喜んでいました。

栄養学科3年の岩間舞子さん(右)は「思っていたよりも通常の生活を送っている被災者が多いことが分かり、大変勉強になった」と感想を述べた。

同大は2011年10月から同村での支援活動を続けており、同大地域連携推進課の花田理江主事は「学生との